

『自分に強く』

島根県

持田少年剣道クラブ

小学6年生 新藤 足穂

「限界突破」

ぼくは、この言葉が好きです。この言葉を知ったのは、二年生の頃でした。言葉の意味は文字通りにはわかっても、限界を突破することの本当の意味はわかりませんでした。

小学一年生の時に持田少年剣道クラブに入部したぼくが、一番最初に目にしたのは、あせをながしながら、一生けん命けい古をしている先輩達のすがたでした。

「ぼくもあのようにになりたい！」

と思いました。

入部してからの剣道の練習は大変で、一番最初は、足さばき、竹刀を持つと、すぶりをする。そのくり返しでした。でも練習をすると、実力がついたと感ずることができました。

低学年の頃は、ある試合では三位になったり、県大会で一位になったり、いろいろな試合に出ることができ、勝つことができました。

しかし、なぜか三年のころにはまったく勝てなくなっていました。

「ぼくには剣道はむいていない。」

いつしかぼくは、自分自身に逃げ道を作っていました。試合に負けても、くやし涙を流す事がなくなってきました。ぼくは、ぼく自身の限界を自分で作ってしまいました。

四年のころには試合のチームに入ることもできないまま、過していきました。

本当にこのままで良いのかと自分に問いかけました。先生はいつも

「人よりたくさん練習をする。すぶりをする。」

とおっしゃいます。ぼくは、この言葉に素直な気持ちでもう一度自分に強くなってがんばろうと思いました。

それから練習があるたび、一つずつ自分の剣道の悪い所を直すよう心がけていきました。そして、自分で大きな目標と、小さな目標を立てました。小さな目標は練習ごとに立てました。目標が達成できるととてもうれしいです。そして、そこからまた一つ上の目標を立てて、練習をする。それが楽しくなっていました。

六年生の最初に、県大会のチームの選手になって県大会で優勝するという、大きな目標を立てました。そのためにぼくは、いっしょうけんめいけい古にはげみました。そして、絶対優勝するという気持ちで練習をしました。

五月に県大会に向けての強化合宿がありました。その時の目標は

「限界突破！自分に勝つ。」

でした。

その時、限界突破の意味が分かったような気がしました。限界突破は、自分自身の限界に勝つことでした。

県大会のチームの選手発表の日、ぼくはとてもきんちょうしていました。

そして、ぼくはチームの次ほうに選ばれました。その時は、泣きたいぐらいうれしかったです。

そして、その年の県大会で優勝旗を持ち帰ることができました。努力して目標をなしとげることは、素晴らしいことだとその時改めて分かりました。

この六年間で剣道を通して色々な事を学び、様々な事を経験しました。

泣いたこともあったけれど、弱い自分に勝つことで、六年生での優勝をなしとげることができました。その時は、感謝の気持ちでいっぱいでした。

この事がなしとげられたのは、熱血指導してくださった先生方、道場の仲間、いつも応援して下さる保護者の方々のおかげです。

今後もぼくは、剣道ができることに感謝し、また、持田少年剣道クラブらしい、しっかりと基本ができている攻める剣道をするために、たくさん練習をしたいです。

「限界突破」

ぼくはこの言葉通りに、これからも自分自身に挑戦し続けたいと思います。